



シーズ名 機能性消化管疾患の病態解析、バイオマーカーの探索

氏名・所属・役職 田中 史生・医学研究科 先端予防医療学・講師

<概要>

機能性消化管疾患とは、潰瘍や癌などの器質的疾患が内視鏡などの諸検査においても認められないにもかかわらず、胃痛、胃もたれ、下痢などの消化器症状を有する疾患概念です。代表的な疾患として上部消化管領域では機能性ディスぺプシアが、下部消化管領域では過敏性腸症候群などが挙げられます。これらは決して稀な疾患ではなく、特に機能性ディスぺプシアは日本や欧米の一般人口における有病率は概ね10～30%程度と極めて高い疾患ですが、未だその病態生理も不明な点が多く治療法も限られています。以上の背景のもと、機能性消化管疾患の病態の解析、新規バイオマーカーの探索、および予防医学的観点からの研究を行っています。主な研究テーマは、下記の通りです。

【1】機能性ディスぺプシアにおける新規バイオマーカーの探索

十二指腸におけるグリア細胞由来神経栄養因子の発現解析、胃液中エクソソーム由来 miRNA 発現解析

【2】機能性ディスぺプシアに特徴的な内視鏡所見の探索

～ヘリコバクター・ピロリ菌感染状況に基づく解析～

<アピールポイント>

機能性消化管疾患は一般人口における有病率の高い疾患であるため、本研究によりその病態を解析しバイオマーカーを見出すことは社会に多大な影響を及ぼし得ると考えます。すなわち診療所から病院まで、実地臨床において幅広く使用される検査となる可能性を有しています。

<利用・用途・応用分野>

血液検査などによってバイオマーカーを測定し、機能性消化管疾患の診断、治療効果判定などに利用されます。一般診療のみならず、人間ドックの検査項目としても応用可能です。

<関連する知的財産権・引用文献・学会発表など>

「H. pylori 感染状況に基づき細分類した機能性ディスぺプシア患者における内視鏡的評価ー「胃炎の京都分類」を用いた検討ー」田中史生、富永和作、藤川佳子、永見康明、鎌田紀子、山上博一、谷川徹也、斯波将次、渡辺俊雄、藤原靖弘、荒川哲男
第12回 日本消化管学会総会学術集会（東京）2016.2

「内視鏡下十二指腸生検標本を用いたグリア細胞由来神経栄養因子とディスぺプシア症状の関連性」田中史生、藤川佳子、富永和作
第90回 日本消化器内視鏡学会総会（JDDW2015, 東京）

<関連するURL>

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/departments/59-sentanyobou.shtml>

<他分野に求めるニーズ>

なし

キーワード

機能性消化管疾患、機能性ディスぺプシア、バイオマーカー